

“アンヘリータ・バルガス闘病寄金を募ります”

「アンヘリータ・バルガスが脳梗塞で倒れる」、というニュースが去る6月29日未明から世界中に流れました。6月28日午後セビージャのヴィルヘン・デ・ロシオ病院に救急車で搬送されて生命を危ぶまれた後、容態が安定して郊外（ボルムホス）のサン・ホアン・デ・ディオス病院に入院、手術はせずに左脳の血管障害周辺の浮腫を薬で抑えて絶対安静となりました。急報にマヌエラ・カラスコ、ファルーカを始めフラメンコ界のアルティスタ大勢がお見舞いに駆けつけその容態に気をもむ不安な日々を過ごしましたが、アンヘリータの回復は日々目覚ましく、意識も記憶も鮮明で経過良好です。

ただし右半身の麻痺と言語障害が残りました。

7月6日のCTスキャン検査で、左脳の血管損傷およびその周辺の症状は治まっていると診断され、7月11日に自宅の介護体制を整えたうえで退院。今後長期が予想されるリハビリ療養が始まっています。

この間こちらのアルティスタたちが中心となってアンヘリータのおメナへ（チャリティコンサート）の企画が始動し、他方マイテ・プルボン（プロモーター）等が中心になってアンヘリータの生活を維持する基金口座を設立して出資者を得ました。さらに私も含めたアンヘリータと旧知の有志が集まり、今後のアンヘリータのリハビリのプログラムとスペシャリストの派遣・治療、それに伴う経済的資金の調達を目的とした“amigos de Angelita Vargas a favor de su rehabilitación : アンヘリータ・バルガスの闘病、リハビリを支える有志の会(RehabangelitaVargas@groups.facebook.com)”が7月7日セビージャに発足、資金口座を設けました。

すでにマッサージおよび鍼灸の東洋医学やホメオパシーの治療を開始(まもなく始まる通常のリハビリ療法と平行)、「アンヘリータの回復・復帰」という一致した願いのもとに有志それぞれが各国に募金を呼びかけています。

親日家としてクルシージョやライブに毎年のように来日していたアンヘリータ・バルガスの存在は、彼女が病に倒れてさらに大きさを増した気がします。日本からの問い合わせも多くいただき、改めて彼女がどんなに敬愛されていたかを認識しました。

スペインのフラメンコ界もプーロフラメンコの代名詞ともいえる存在を失うかもしれないことに気づいて、動揺しています。

今秋に予定されるアンヘリータへのおメナへが、セビージャのマエストランサ闘牛場に内定しました。

日本が東日本大震災で困難な状況にあることを重々承知のうえで、“アンヘリータの闘病・リハビリを支える方々のお気持ち”を、以下のように募りたいと思います。

7月17日／セビージャ、横田万紀

e-mail:isbylia11@hotmail.com, <http://www.nomade-tokyo.com/maki/>

- ・ お見舞いのご寸志は、どんな小額からでも受け付けます。
(恐縮ですがお振込手数料はご負担ください)
- ・ 日本での窓口・問い合わせ：井山直子 (09085111055/naonaona88@t.vodafone.ne.jp)
- ・ 振込み先：みずほ銀行；溝ノ口支店 (388) 普通口座 (2304042)
横田万紀 (ヨコタマキ)
- ・ 締め切り：9月末 (9月まで各月末締め)

※なお振り込み口座の管理および送金を、井山直子さんに全面的に委任いたしました。募金の使途明細をご希望の方は、ご連絡くだされば有志の会の会計担当者からお知らせいたします。